観光社会資本の事例

テーマ 「見る。遊ぶ。体験・学習する。」

【施設の状況写真】





木曽川の情景をモチーフにした「景」のなかで、"生きた"川の自然に触れながら、水遊びや魚つかみなど様々な体験イベントが楽しめる。

【施設の利用写真】



"生きた"川は、ファミリー層に大人気。



夏場のイベントの様子。 花火も打ちとればるイベをは、駐とは満車となる。

【観光資源としての利用状況】

河川環境楽園は、国営木曽三川公園の「三派川地区」に位置しています。国営公園のほか、岐阜県営公園、自然共生研究センター、東海北陸自動車道川島 PA から成り立つ環境共生型テーマパークで、平成11年に開園しました。平成16年7月に県営公園内に世界淡水魚園水族館が開館し、平成17年4月には川づくりを考え、これを実践する場として水辺共生体験館(国)、河川環境研究所(県)が開館しています。ハイウェイオアシスを有しているため、県内外を問わず、たくさんの人に利用されています。

平成16年度は年間約460万人にご来園頂き、東海三県の主要レジャー施設の第1位に輝きました。平成17年4月10日には累計2000万人を迎えています。

テーマ 「見る。遊ぶ。体験・学習する。」

【社会資本の基礎データ】

〇名称 河川環境楽園

〇所在地 岐阜県各務原市川島笠田

〇事業名 国営公園整備事業ほか

〇事業主体 国土交通省・岐阜県

〇事業期間

【社会資本の役割・効果】

〇環境教育の効果

河川環境楽園自然発見館では、環境プログラムを展開。専門知識を持った指導者とともに様々な実体験を通して楽しく遊びながら学ぶことができます。年間約13000人に利用されています。

〇ハイウェイオアシス事業の効果

国営公園内に東海北陸自動車道川島PAがある河川環境楽園では、来園時間の短縮など誘致圏の広い国営公園事業をサポートしています。

〇調杳研究効果

河川環境楽園では、実験河川や、実験水路などを設けることにより、自然環境の保全・復元方法などを研究し、治水事業に役立てています。

【位置図】







【関連ホームページ】

国営木曽三川公園 http://www.kisosansenkoen.go.jp/index2.html

河川環境楽園自然発見館 http://www.hakkenkan.go.jp/hakkene/top.html